

1. 名古屋学芸大学教職課程研究会編刊

『資質・能力を育てる教職カリキュラム研究（教育実践記録集）第3集』

文責 名古屋学芸大学教職課程研究会

1 趣旨と教職課程運営、教員養成に関わる背景

「名古屋学芸大学 2020 年度主な課題・事業」（同年 4 月評議会資料）の方針に応える企画。ヒューマンケア学部改組検討「児童発達教育コース」から「児童発達教育専攻」へ課程認定・名称変更、小学校教諭免許状取得を中心とした特色の強化、教員採用試験・教員指導体制の再整備、教職課程の見直しへの対応のなかの「新学習指導要領に対応した教育施設整備の充実」「教職支援センター（仮称）」の設置、「教職課程に係る教員業績取得支援」と記載されていることへの対応の一環である。

2 ヒューマンケア学部「児童発達教育専攻」課程認定申請とその後の対応

—大学としての「教職課程の質保証」「自己点検・評価」へ—

ヒューマンケア学部・児童発達教育専攻の課程認定申請（2020 年 3 月）とその後の教育責任指導体制に資するため、専任（特任教授）、客員教授、非常勤講師等の諸先生方の担当科目に関わる「教職課程に係る教員業績取得支援」作成の一つの機会として実施した。

3 編集方針と構成、日程等

(1) 編集 名古屋学芸大学教職課程研究会（同教職課程委員会）

1～3 集とも教職に関わる研究会組織として教職課程研究会を設置し（全学的な委員会である「教職課程委員会」の協力のもと）編集・刊行にあたっている。

(2) 編集方針、構成・内容—全学的な教職課程「内部質保証」の一つ—

提言や教育実践研究 28 編、執筆者 26 名及び第 2 回教職課程探究シンポジウム（教職 FD）記録、教職課程 ICT 活用研修会（教職 FD）・記録を収録。28 編には執筆をお願いした学長、副学長、ヒューマンケア学部学部長・学科長、管理栄養学部学部長・学科長、ヒューマンケア学部専攻主任等の他、FD 推進委員会委員長の執筆等を含む。（参考、1 号は 39 編・26 名執筆、2 号は 33 編・22 名執筆）。

(3) 構成・頁数 第 1 部～第 5 部の構成で総頁数は 228 頁（1 号 190 頁、2 号 242 頁）

(4) 書式・フォーマットと公的研究論文

を整え、研究論文集としての質を担保するため科学論文・教育実践記録の内実を保持する配慮を、編集委員会及び複数の教員で行った。例えば、公的な論理性のチェック（論文構成、文献引用の確認、助言）、アカデミックなタイトルの付け方、要旨（概要）記載、主な参考文献等を明記等の点である。

(5) 謹呈・送付先

関連の大学（学長、教職課程センター長等）、高校、教育長、教育委員会や文科省等に謹呈し本学の教育成果公表の一環とする。具体的には本学関係を除き、県市等教育委員会、近隣大学、教職課程探究シンポジウム登壇者（高校関係 2 名）、文科省、地域連携関係等。

4 『（教育実践記録集）第3集』の作成スケジュール（概要）

2020 年 7 月 7 日 学長企画室会議で提案、審議

7 月 22 日ヒューマンケア学部教授会で提案、原稿依頼

11 月原稿締切、11 月末日入稿、著者校正は 1 回、他は編集委員会による

2020 年 2 月納品、3 月評議会報告

以上

資質・能力を育てる 教職カリキュラム研究

第3集

教育
実践
記録
集

大学における教員養成では、危機にこそ柔軟に対応できる教員の指導力と専門性、クリティカルな見識を高める必要がある。

子どもたちに身につけさせるレジリエンスと自己調整能力、課題発見と解決能力、学び続ける能力といった資質・能力は私たちにもまた、改めて問われている。

